

## 見方・考え方を働かせている具体的な子供の姿（思考表現例）

### ①見方・考え方【算数】

◎事象を  
数量や図形、  
図形やそれらの関係など  
に着目して捉え、  
根拠を基に筋道を立てて考え、  
統合的・発展的に考えること

### 【社会】

◎社会的事象を  
位置や空間的な広がり  
時期や時間の経過  
事象や人々の相互関係  
に着目して捉え、比較・分類したり、総合したり、  
地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること

### ②見方・考え方を働かせている姿【算数】

A: 問いを見付ける(問いを抱く)。  
B: 考えを式や図等に表わしたり読んだりする。  
C: 筋道立てて考える。  
D: 根拠を明らかにして考えたり、説明したりする。  
E: 関連付けて、発展的一統的に考える。  
F: 「簡潔性・明瞭性・的確性(はかせどん)」を視点に考える。  
G: 単純化して考える。  
H: 多面的・批判的に考察する。

### 【社会】

A: 問いを見付ける(問いを抱く)。  
B: 資料等を用いて作品などにまとめたり、図表などに表したりする。  
C: 社会的事象について調べ、考えたり、選択・判断したりする。  
D: 根拠を明確にして、理解したことや自分の考えなどを論理的に説明する。  
E: 総合したり、関連付けたりして考える  
F: 「簡潔性・明瞭性・的確性」を視点に考える。  
G: 習得した知識や技能を活用して考える。  
H: 複数の立場や意見を踏まえて多角的に考える

### ③見方・考え方を働かせている姿【算数】

算 数	社 会
<b>A: 問いを見付ける(問いを抱く)。</b> ・ どちらの方が多い(大きい、長い)のかな。 ・ これまで学習した方法でできるかな。 ・ わり算でできるのかな。	<b>A: 問いを見付ける(問いを抱く)。</b> ・ どのような場所にあるのかな。 ・ どのように変わってきたのかな。 ・ どのようなつながりがあるのかな。
<b>B: 考えを式や図等に表わしたり、読んだりする。</b> ・ 数・式・図・表・グラフに表わすとどうなるのかな。 ・ ○○君の図は、△△さんの式と同じところがあるな。	<b>B: 資料や写真から読み取ったり、読み取った情報を作品などにまとめたり図表に表わしたりする</b> ・ グラフや写真からどんなことが分かるかな。 ・ 図・表・グラフに表わすとどうなるのかな。
<b>C: 筋道立てて考える。</b> ・ まず、一のくらいから計算して、次に…、そして、だから答えは○○になるぞ。	<b>C: 社会的事象について調べ、考えたり、選択・判断したいする</b> ・ どのように続けていくことがよいのだろう。⇒分かった。○○は、～ということだ。 ・ 共に生きていく上で何が大切だろう。○○と～では、どちらだろう。
<b>D: 根拠を明らかにして考えたり、説明したりする。</b> ・ 答えは～となったよ。 その理由は、この計算は○○となることから、△△といえるからだよ。	<b>D: 根拠を明確にして理解したことや自分の考えなどを論理的に説明する。</b> ・ ～が大切だと考えたよ。私の考えは、○○だよ。(主張) その理由は、○○という事実から△△と考えたからだよ。
<b>E: 関連付けて、発展的一統的に考える。</b> ・ どの方法にも○○というきまりがいえるよ。 ・ もしも(例えば)～だったら ・ だったら、～の場合でも○○できるのかな。 ・ ○○の時に学習した時と同じように考えると～。	<b>E: 総合したり、関連付けたいして考える。</b> ・ ○○と△△は～が同じだから。○○と△△から、～ということが分かる。 ・ もしも(例えば)～だったら、どうなるだろう。 ・ だったら、～の場合でも○○なのかな。 ・ ○○の時に学習した視点で考えると～だと思うな。
<b>F: 「簡潔性・明瞭性・的確性(はかせどん)」を視点に考える。</b> ・ 簡単にできるのは…。早く計算できる方法は…。 どんな時でもできるのは…。 分かりやすくいうと…。	<b>F: 「簡潔性・明瞭性・的確性」を視点に考える。</b> ・ ～や～は、簡単に言うと○○だ。(と言える。) ・ 分かりやすくいうと○○だ。(と言える。)
<b>G: 単純化して考える。</b> ・ もっと、簡単な数で考えるとどうなるかな。	<b>G: 単純化して考える。</b> ・ もっと、視点を絞って考えるとどうなるかな。 ・ ○○の場合でも、同様に言える。
<b>H: 多面的・批判的に考察する。</b> ・ 別な方法で説明し(考え)てみよう。 ・ この方法は正しいのかな。ほかの方法でも試してみよう。 ・ 考えた方法が別な問題でも使えるのかな。	<b>H: 複数の立場や意見を踏まえて多角的に考える。</b> ・ 別の人の立場になって考えてみよう。 ・ ここに、こんな施設が多いのは○○だからかな。 ・ それぞれの立場で考えると～、○○ということが分かる。

単元目標	
知識及び技能	10より大きく20までのものの数を数えたり、数字を用いて表したりすることができる。 「一の位」、「十の位」の用語と意味を理解し、2位数の構成を理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	10のまとまりを作って数えることを通して、十を単位とした数の仕組みとその表現のよさを見出す力を養う。
学びに向かう力、人間性等	身の回りで用いられている数を数えたり比べたり、数を用いて表そうとする態度を養う。
中心となる数学的な見方・考え方	
☆ 10のまとまりに着目して、数の比べた方や数え方を考える。 ☆ 「10とあといくつ」という数の見方や計算の意味に着目して、(十何) ± (1位数) の計算のしかたを図や式に整理して考える。	
重点とする評価の観点及び指導の具体	
重点とする評価の観点(1/7)	10のまとまりを作ることによさに気づき、ブロックなどを用いて、整理して考えている。
<b>【子供の表現例】</b> ○ 1学期にブロックを使って数えたから、ブロックをおいてみよう。 ○ 印をつけながら数えてみよう。10になったら <u>困</u> んでみよう。 ○ 10のまとまりと、ばらが3あるから13だよ。	<b>【指導の手立て】</b> ○ 10のまとまりとばらに並べて整理すると分かりやすいことに気付かせるためにブロックを用いて考えさせるようにする。 ○ 10こずつまとめるよさに気付かせるために、「10個ずつ線で囲んだときと囲まなかった時を比べてみましょう。どちらが見やすいかな。」と発問する。
重点とする評価の観点(7/7)	「10といくつ」の数の見方から、(十何) ± (1位数) の計算のしかたを図や式に整理して考えている。
<b>【子供の表現例】</b> ○ ブロックを使えば、答えが分かりそうだな。 ○ 12+3の12は10のまとまりが1個とばらが2個になるなあ。ばらの2と3をたせば、5。10と5で答えは15だ。 $1 \quad \underline{2} \quad + \quad \underline{3} \quad = \quad 1 \quad \underline{5}$ ○ 15-2は、10のまとまりはそのまま、ばらの5から2をひいて3だから答えは13だよ。 $1 \quad \underline{5} \quad - \quad \underline{2} \quad = \quad 1 \quad \underline{3}$	<b>【指導の手立て】</b> ○ ブロック操作をさせながら考えさせる。その際、これまでの学習を意識させるために「10このまとまりつくってブロックを並べてみよう」と助言する。 ○ ブロックを使わずに、計算の仕方を考える際、式とブロックを関連付けて考えさせる。 ○ 式に表す際は、「10とあといくつ」という数の見方をしてきたことを想起させ、一位数どうしを足せば簡単に計算できることに気付かせる。
重点とする評価の観点(/)	
<b>【子供の表現例】</b>	<b>【指導の手立て】</b>
反省	

第2学年 「かけざん(3)(7時間)」 評価資料

単元の見方・考え方	
知識及び技能	乗法のきまりを用いて、乗法九九を構成したり、被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解したりすることができる。
思考力、判断力、表現力等	九九表を観察して、乗法についての性質を見出したり、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えたりできる。
学びに向かう力、人間性等	乗法のきまりや、九九表を活用して、楽しいゲームを工夫して楽しんだり身近な問題に生かそうとしたりする態度を養う。
中心となる数学的な見方・考え方	
☆ 乗法九九の表における数量の関係に着目する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被乗数と乗数、積の関係の増え方(乗数が1増えると積は被乗数分だけ増える)</li> <li>・ 交換法則(乗数と被乗数を交換しても答えは同じになる)</li> <li>・ 九九表における数の並び方(きまり)</li> </ul> ☆ 計算に関して成り立つ性質(きまり)を論理的に考える(帰納的な考え)。           ☆ 日常生活の場面を、乗法のきまりや分ける、全体と部分・部分と部分などの考え方を基に式や図を用いて考える。	
重点とする評価の観点及び指導の具体	
重点とする評価の観点(1/7)	九九のよさに気づき、九九のきまりや特徴を見出している。
<b>【子供の表現例】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4の段は、かける数が1増えると、答えが4ずつ増えるよ。</li> <li>○ どの段もかけられる数の分だけ増えるきまりがあるよ。</li> <li>○ 九九表にでてくる同じ数は向かい合っているよ。</li> <li>○ 2の段と、3の段の答えをたすと、5の段の答えになるよ。</li> <li>○ <math>3 \times 5</math>と<math>5 \times 3</math>の答えは同じになるよ。数字を入れ替えても答えは同じだ。</li> </ul>	<b>【指導の手立て】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 被乗数分増えていることに気付かせるために「かける数が1増えると答えはどうなっているかな」、「どの段にも言えるきまりはなんだろう。」と発問する。</li> <li>○ 同じ数が向かい合っていることに気付かせるために、同じ数の答えを同じ色ペンで囲む。</li> <li>○ 2の段の答え+3の段の答え=5の段の答えに気付かせるために、2、3、5の段だけが書かれた表を提示する。</li> </ul>
重点とする評価の観点(3/7)	乗法九九を想起し、場の状況を考えながら式や図を用いて表現し、工夫して考えている。
<b>【子供の表現例】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ チョコレートの並び方でも、かけ算を使ってできそうだ。</li> <li>○ 6のまとまりと3のまとまりをみつけたよ。最後にたせばチョコレートの数が分かるぞ。</li> <li>○ だいきさんの考えは、全部のマスの中から、食べてしまった部分を引いているよ。同じ数のまとまりを見つけられたら、かけ算を使って全体の数を求められるよ。たし算やひき算もいっしょにつかえるね。</li> </ul>	<b>【指導の手立て】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複合的に並んだチョコレートをかけ算を使って求めるために、数のまとまりに着目させ、色鉛筆で囲ませる。</li> <li>○ 全体から部分を引く考えに気付かせるために、式を示し、この式が図のどこを示しているのか話し合わせる。</li> <li>○ チョコレートの問題から、考え方の強雨通店を見つけ、簡単にまとめる。座席の問題を示し、その考えを使って課題を解決する。</li> </ul>
重点とする評価の観点(4/7)	簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりを基に考えている。
<b>【子供の表現例】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <math>3 \times 9</math>まではできるから、<math>3 \times 10</math>からは、前の答えに3ずつ足していけばいいぞ。</li> <li>○ <math>3 \times 5</math>と<math>3 \times 5</math>分けて、最後に足せば答えが出るぞ。</li> </ul>	<b>【指導の手立て】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同じ数ずつ増えるというきまりを想起させるために、かけ算のきまりを算数コーナーに掲示する。</li> <li>○ 既習事項と関連付けるために、「かけ算九九表で見つけたきまりが使えないかな」と発問したり、見つけたきまりを掲示したりする。</li> </ul>
反省	

第3学年 「1けたをかけるかけ算(10時間)」評価資料

単元目標	
知識及び技能	(2, 3位数) × (1位数) の筆算の仕方を理解し, 筆算で計算できる。
思考力, 判断力, 表現力等	(2, 3位数) × (1位数) の計算の仕方を, 具体物や図, 式を用いて表現することができる。
学びに向かう力 人間性等	乗法の筆算のよさがわかり, 進んで用いようとする態度を養う。
中心となる数学的な見方・考え方	
<p>☆ 10のまとまりや100のまとまりに着目して, (2位数) × (1位数), (3位数) × (1位数) の計算の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (2位数) × (1位数) では, 何十の計算を使って考える。※</li> <li>・ 筆算は, 位を縦にそろえて書く必要があることを理解する。</li> <li>・ (3位数) × (1位数) では, 何百の計算を使って考える。(※の活用を図る。)</li> </ul>	
重点とする評価の観点及び指導の具体	
重点とする評価の観点(1/10)	10や100のまとまりに着目して, 答えの求め方を考えている。
<p>【子供の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ チョコレート1個で十円玉が2枚, 4個買うから <math>2 \times 4 = 8</math>。十円玉は8枚になるから, 80円。</li> <li>○ 1ふくろあたり百円玉が2個だから, <math>2 \times 4 = 8</math>。百円玉が8枚だから, 800円。</li> </ul>	<p>【指導の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 十のまとまりが何個になるかに着目させると, 九九が使えることに気付かせる。</li> <li>○ 「<math>20 \times 4</math>」と同じように考えることを押さえる。</li> </ul>
重点とする評価の観点(2/10)	既習事項を活用して, $23 \times 3$ の計算のしかたを具体物や図, 式を用いて表現して考えている。
<p>【子供の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 23を20と3に分けて計算すれば, 九九が使えるよ。</li> <li>○ 分けて考えると, <math>20 \times 3 = 60</math>。 <math>3 \times 3 = 9</math>。 <math>60 + 9 = 69</math>。</li> </ul>	<p>【指導の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前に学習した何十の計算を使っていることを押さえる。</li> <li>○ 図, 式, 言葉などで計算のしかたについて, 自分の考えを表現させる。</li> </ul>
重点とする評価の観点(5/10)	(2位数) × (1位数) の計算の仕方を活用して, (3位数) × (1位数) の計算の仕方を図や式等を用いて考えている。
<p>【子供の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 213円は, 位ごとに分けて計算します。</li> <li>○ 213円は, 百が2個と十が1個と一が3個です。</li> <li>○ <math>200 \times 3 = 600</math>。 <math>10 \times 3 = 30</math>。 <math>3 \times 3 = 9</math>。 <math>600 + 30 + 9 = 639</math>。</li> </ul>	<p>【指導の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ かけられる数を分けて考えることを押さえる。</li> <li>○ 213の構成をもとに, 位ごとに分けてかけて方法をブロックや図, 式と結び付けながら計算の仕方を考えさせる。</li> </ul>
反省	

単元目標	
知識及び技能	面積の単位と測定の意味がわかり、面積の求め方や単位の関係を理解できる。長方形や正方形の面積を、公式を使って求めることができる。
思考力、判断力、表現力等	広さを数値化する方法、広さに応じた面積の単位や求め方を考えたり、面積の単位とこれまでに学習した単位の関係を考えたりする力を養う。
学びに向かう力、人間性等	面積の大きさを数値化して表すことよさに気づき、いろいろな形の面積を求めようとする態度を養う。
中心となる数学的な見方・考え方	
<p>☆ 単位面積(1cm<sup>2</sup>, 1m<sup>2</sup>, 1a, 1ha, 1km<sup>2</sup>)のいくつ分になるかで面積も数値化できることに着目し、正方形や長方形を縦と横の長さを用いると公式になると考える。</p> <p>☆ 複合図形の面積が正方形や長方形の<b>部分で作られている</b>ことに着目し、部分と部分をたしたり、全体から部分をひいたりすることで面積を求めることができることを考える。</p> <p>☆ 正方形の1辺を10倍すると面積が100倍になることに着目し、面積の様々な単位の関係(規則性)を考える。</p>	
重点とする評価の観点及び指導の具体	
重点とする評価の観点(2/10)	面積も長さやかさと同じように、単位のいくつ分かで表すことができることを理解し、変形しても面積が等しくなることを捉えている。
<p><b>【子供の表現例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同じ広さのものを使えば、比べることができます。</li> <li>○ 消しゴムや筆箱、ノートの広さも正方形を並べたものの上に置くと比べることができます。</li> <li>○ 正方形を塗りに切っても、組み合わせると1cm<sup>2</sup>になります。</li> </ul>	<p><b>【指導の手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長さやかさ、重さの学習を想起させ、任意単位で比較することができることに気付かせる。</li> <li>○ 「どんな広さで数えると分かりやすくなるかな。」と発問し、1cm<sup>2</sup>の正方形で比べるよさを捉えさせる。</li> <li>○ 「どうしたら正方形になるのかな。」と発問し、変形したり、移動させたりすることで1cm<sup>2</sup>の正方形に置き換えることができることに気付かせる。</li> </ul>
重点とする評価の観点(6/10)	複合図形の面積が、長方形や正方形の面積の和や差で求められることを図と式を関連付けながら考えることができる。
<p><b>【子供の表現例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正方形でも長方形でもないけど、分けたら、長方形が2つになります。</li> <li>○ 2つの長方形に分けて考えました。上の部分が2×3=6、下の部分が3×5=15、合わせて6+15=21で21cm<sup>2</sup>になります。</li> <li>○ 部分と部分をたしたり、全体から部分をひいたりすることでできるから、簡単にできる方法を選べるといいです。</li> </ul>	<p><b>【指導の手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長方形や正方形が組み合わせさせた形であることを捉えさせるために、提示する際に少しずつ図形を見せていく。</li> <li>○ 「どこに長方形があるのかな。」と発問し、部分と部分の組み合わせや全体と部分との組み合わせになっていることに気付かせる。</li> <li>○ 図と式に色をつけたり、矢印でつないだりして考えが伝わるようにさせる。</li> </ul>
重点とする評価の観点(7/10)	1m <sup>2</sup> =10000cm <sup>2</sup> であることを理解し、単位の違いに気をつけて考えることができる。
<p><b>【子供の表現例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長さがcmからmに変わったので、m<sup>2</sup>で表します。</li> <li>○ 1mは100cmです。1m<sup>2</sup>は100×100=10000で10000cm<sup>2</sup>になります。</li> <li>○ cmとmが混ざった問題では、cmに単位をそろえると計算することができます。</li> </ul>	<p><b>【指導の手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 辺がmで表される場合は、単位面積にm<sup>2</sup>を使う方がよいことを捉えさせる。</li> <li>○ 1m<sup>2</sup>の図を提示し「1mは何cmかな。それなら、1m<sup>2</sup>は何cm<sup>2</sup>かな。」と発問しながら、単位の関係を捉えさせる。</li> <li>○ 単位をそろえずに計算した場合を提示し、単位をそろえる大切さに気付かせる。</li> </ul>
反省	

単元の目標	
知識及び技能	平行四辺形，三角形の面積の求め方や求積公式の意味を理解し，求積公式を活用し，基本的な図形の面積を求めることができる。
思考力，判断力，表現力等	既習の求積方法をもとにして，倍積変形・等積変形などの操作を通し，図形の面積の求め方を考える力を養う。
学びに向かう力，人間性等	平行四辺形や三角形，ひし形，台形の面積の求め方を，既習の正方形や長方形の面積の求め方をもとに考えようとする態度を養う。
中心となる数学的な見方・考え方	
<p>☆ 図形を構成する要素などに着目して，基本図形の面積の求め方を見出すとともに，その表現を振り返り，簡潔かつ的確な表現に高め，公式として導くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平行四辺形，三角形，台形の面積を求める際は，<b>図形の特徴</b>に着目して，切ったり移動させたりしながら既習の図形に等積変形したり分割，倍積変形したりして考え，言葉・図・式などを使って表現する。</li> </ul>	
重点とする評価の観点及び指導の具体	
重点とする評価の観点(1/14)	平行四辺形の面積の求め方を既習の学習(長方形の面積の求め方)と関連付け，等積変形して考えている。
<p><b>【子供の表現例】</b></p> <p>○ 斜めの部分を切って移動させると縦4 cm，横6 cmの長方形に変形させることができました。だから平行四辺形の面積は <math>4 \times 6 = 24</math> で <math>24 \text{ cm}^2</math> になります。</p>	<p><b>【指導の手立て】</b></p> <p>○ 既習を活かして面積を求めるためにどうすればよいかを教師とともに図で確認する。</p> <p>○ 図，式，言葉などを関連付けながら考えられるようにするために「この矢印は何を表しているのかな。」「どうしてそこで切ったのかな。」と発問する。</p> <p>○ 平行四辺形を既習である長方形に変形すると面積を求めることができることに気付かせる。</p>
重点とする評価の観点(5/14)	三角形の面積の求め方を部分と部分に分けたり，倍積変形したりして考えている。
<p><b>【子供の表現例】</b></p> <p>○ 上の部分を切って移動させると底辺 6 cm，高さ 2 cmの平行四辺形に変形することができました。だから面積は， <math>6 \times 2</math> で <math>12 \text{ cm}^2</math> です。</p> <p>○ 三角形を二つ組み合わせると底辺が 6 cm，高さが 4 cmの平行四辺形になります。三角形の面積は，この平行四辺形の面積の半分です。だから <math>6 \times 4 \div 2</math> で <math>12 \text{ cm}^2</math> です。</p>	<p><b>【指導の手立て】</b></p> <p>○ 算数コーナーに平行四辺形の面積の求め方を考えた際の図や式を掲示することで，同じように部分を切ったり，動かしたりして考えることができるようにする。</p> <p>○ 直角三角形は二つで長方形になることを教師とともに確認し，長方形の面積の半分の面積であることに気付かせる。</p> <p>○ 図，式，言葉などを関連付けながら説明できるようにするために，「なぜ <math>\div 2</math> をしたのかな。」「どうしてそこで切ったのかな。」と発問する。</p>
重点とする評価の観点(9/14)	等積変形や倍積変形の考えを使って，台形を三角形2つに分割したり，台形を2つ組み合わせると平行四辺形にしたりして，台形の面積の求め方を考え，言葉，図，式を関連付けながら説明している。
<p><b>【子供の表現例】</b></p> <p>○ 台形の面積は，これまで学習してきた方法で求めることができそうぞ。</p> <p>○ 上の部分を切って移動させると底辺が 8 cm，高さが 2 cmの平行四辺形ができます。</p> <p>○ 合同な台形を二つ組み合わせると底辺 8 cm，高さ 4 cmの平行四辺形ができます。その平行四辺形の面積の半分が台形の面積になります。</p> <p>○ どの形に変えても，面積を求める式は，台形の下の方の辺と上の辺を使っています。高さをかけたり，2でわったりしています。</p>	<p><b>【指導の手立て】</b></p> <p>○ 今回も同じようにして考えることができそうぞということに気付かせるために，算数コーナーに平行四辺形，三角形の面積の求め方を考えた際の図や式を掲示する。</p> <p>○ 図，式，言葉などを関連付けながら説明できるようにするために，「なぜ <math>\div 2</math> をしたのかな。」「どうして足したのかな」と発問する。</p> <p>○ 変形した図形の辺や高さや元の図形の部分とを関連付けさせたり，各式の共通点を捉えさせたりすることで，台形の公式に必要な部分に気付かせていく。</p>
反省	

第5学年 「自然条件と人々の暮らし(10時間)」 評価資料

単元の目標	
知識及び技能	自然条件から見て特色ある地域の人々が、自然環境に適応して生活していることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能をみにつけるようにする。
思考力・判断力・表現力	我が国の国土の自然条件の特色と国民生活との関連を多角的に考え比較する力、考えたことを説明する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	我が国の国土の自然環境の特色と国民生活との関連について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情を養う。
中心となる社会的事象の見方・考え方	
<p>☆ 暖かい地域と寒い地域、高地と低地との比較をもとに、自然条件の特色と暮らしや産業との関係を追及し、表現しようとしている。</p> <p>☆ 北海道で暮らす人々が冬の寒さや雪に備えた工夫をしている様子を、寒さを防ぐための設備の写真資料や雨温図・各地の降雪量などの資料を関連付けて読み取ろうとしている。</p>	
重点とする評価の観点及び指導の具体	
重点とする評価の観点(1/10)	暖かい地域と寒い地域、高地と低地との比較をもとに、自然条件と暮らしや産業との関係を問う学習問題をつくり、表現している。
<b>【子供の表現例】</b> ○ 同じ4月なのに、沖縄県では海で泳いでいて、北海道ではスキーをしているよ。 ○ 野辺山原は周りに高い山が見えるよ。佐原北部にはおだやかな流れの川が流れているね。 ○ 気候や地形によって人々の暮らしや産業は変わってくるのかな。	<b>【指導の手立て】</b> ○ 気候や地形に特色のある地域の写真をタブレットで比較させ、気付いたことを話し合わせる。 ○ 気づきや疑問をノートに整理し、気候や地形の特色と人々の暮らしや産業にはどのような関係があるのかを予想させる。
重点とする評価の観点(8/10)	北海道で暮らす人々が冬の寒さや雪に備えた工夫をしている様子を、複数の資料を関連付けて読み取っている。
<b>【子供の表現例】</b> ○ 資料を見ると、北海道は1年間に降る雪の量が多いことが分かるね。気温も低いので、寒さや雪の対策をしているのではないかな。 ○ 雪を生かす取り組みがあるなんて初めて知ったな。 ○ 北海道で暮らす人々は冬の寒さや雪にそなえて暮らしを工夫しているよ。鹿児島県ではどんな工夫をしているのかな。	<b>【指導の手立て】</b> ○ ベン図を活用し、冬の寒さや雪に備えた北海道の人々の暮らしの工夫を視点ごとに分類しながら調べ、視点同士を関連付けさせるようにする。 ○ 鹿児島県のあたたかい自然条件に合わせた人々の暮らしの工夫を振り返り、国土に対する愛情を養い、本時の学びをより深められるようにする。
重点とする評価の観点(9/10)	調べた地域の様子をもとに、自然条件と暮らしや産業との関係について考え、適切に説明している。
<b>【子供の表現例】</b> ○ 気候や地形に特色のある地域の人たちは、自然条件を生かしながら暮らしているんだね。 ○ 厳しい自然条件をしのぐための工夫や努力があることにも気が付いたよ。 ○ 私たちの住む鹿児島県の自然条件と暮らしや産業との関係についてもっと知りたいな。	<b>【指導の手立て】</b> ○ 気候や地形の特色と人々の暮らしや産業の関わりについて、タブレット上でリーフレットにまとめることで、これまで調べてきた内容を集約・共有させる。 ○ 学習問題について「自然条件」や「暮らしや産業」などの言葉を使って自身の言葉でまとめさせる。
反省	

第6学年 「明治の新しい国づくり(7時間)」評価資料

単元の目標	
知識及び技能	明治時代の特色や社会背景について、各種の基礎的資料を通して必要な情報を調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。
思考力・判断力・表現力等	明治時代の近代化の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
学びに向かう力、人間性等	主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を養う。
中心となる社会的な見方・考え方	
<p>☆ 黒船来航の様子とそれに対する幕府の対応に着目し、幕府の立場や心情、時代背景を統合することで開国から倒幕への経緯を追求しようとしている。</p> <p>☆ 江戸幕府と明治政府の政治に着目・比較することにより明治政府がどのような国づくりを目指したのかを追求しようとしている。</p> <p>☆ 明治時代の出来事と時間の経過に着目させ、近代化がどのように進められたかまとめようとしている。</p>	
重点とする評価の観点及び指導の具体	
重点とする評価の観点(2/7)	当時の様子、ペリー来航の目的、課題、困ったことの観点で分類し、開国の理由を、幕府が混乱していることを想像しながら表現しようとしている。
<p>【子供の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本の船と比べて、黒船はとても大きいね。</li> <li>○ 幕府の人たちは武士がたくさん集まって戦の準備をしているよ。</li> <li>○ 幕府は大きな黒船をどうしたのかな？</li> </ul>	<p>【指導の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料を比較検討し、必要な情報を集めさせるために、教師提示資料を参考にまとめさせる。</li> <li>○ 自分のこととしてとらえさせるために、当時の人がどのように考えたか想像させる。</li> </ul>
重点とする評価の観点(3/7)	開国の影響や幕府の対応と、西郷・大久保・木戸らの働きを関連付け、なぜ倒幕しなければならなかったのか考えようとしている。
<p>【子供の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長州藩の砲台が占領されているけど、何が原因だったのかな？</li> <li>○ 薩摩藩の西郷隆盛や大久保利通はどのような働きをしたのか調べてみよう。</li> </ul>	<p>【指導の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループによる学習差を埋めるために、バズ学習で一度説明・資料共有をさせる。</li> <li>○ どのような考えで倒幕に時代が流れたのか、三角ロジックで使って予想させる。</li> </ul>
重点とする評価の観点(5/7)	富国強兵政策を進め、欧米諸国に追いつく国づくりを目指したことを理解し、整理しようとしている。
<p>【子供の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大きな建物の中でたくさんの人が働いているね。何を作る工場なのかな？</li> <li>○ 不平等条約を結んだ日本は、欧米の国に追いつき負けない国をつくるため、どんなことをしたのか調べてみよう。</li> </ul>	<p>【指導の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知識を共有するために、全体で調べたことを共有し、ノートにまとめさせる。</li> <li>○ 話し合いをより深めさせるために、「つないで深むっど！」の視点を使いながらまとめさせる。</li> </ul>
反省	



第6学年 「拡大図と縮図(10時間)」評価資料

単元の目標	
知識及び技能	拡大図・縮図の意味や性質を理解し、作図することができる。
思考力、判断力・表現力等	拡大図・縮図の作図のしかたを考え、言葉や図を用いて表現したり、実際には測定しにくい長さを計算で求める方法を考えたりできる。
学びに向かう力、人間性等	身の回りから拡大図や縮図を見つけたり、拡大図・縮図を日常生活で活用したりしようとする態度を養う。
中心となる数学的な見方・考え方	
<p>☆ 図形を構成する要素や図形相互の関係に着目する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図形を「辺の長さ」と「角の大きさ」という構成要素ごとに整理して表にする。</li> <li>・ 割合を使って辺の長さを比べて特徴を調べる。</li> <li>・ 既習事項の比を使って考える。</li> </ul> <p>☆ 縮図や拡大図の性質を基に既習の図形を捉えなおしたり、日常生活に生かしたりする。</p>	
重点とする評価の観点及び指導の具体	
重点とする評価の観点(1/10)	同じ形を探すために、対応する角の大きさや対応する辺の長さの比に着目して考えている。
<p>【子供の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同じ形に見えるのは、図形の辺の長さや角の大きさにきまりがあるからかな。</li> <li>○ 図形の大きさが違って、角の大きさは同じだ。</li> <li>○ 基の形と比べて、辺の長さは違って倍率がどの辺も同じだ。</li> </ul>	<p>【指導の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 写真を拡大して見せ、その後、縦長や横長に拡大した写真にすると「同じ」と言えないことに気付かせる。</li> <li>○ 拡大しても同じ形と言えるためには、基の形とどこが同じでどこが違うのかを辺の長さや角の大きさに着目させて考えさせる。</li> </ul>
重点とする評価の観点(3/10)	方眼紙に拡大図をかく利点について、説明しようとしている。
<p>【子供の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 方眼があるから、長さを測りやすいな。</li> <li>○ 方眼紙に書くと、2倍、3倍がすぐにわかるよ。</li> <li>○ 方眼紙だと、書いた後、数倍した後の辺の長さを確認しやすいな。</li> </ul>	<p>【指導の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2倍に拡大した図をかくためには、どこが2倍になればよいのかを考えさせる。</li> <li>○ 方眼紙に点を打って、その後、直線で結べばよいことに気付かせる。</li> </ul>
重点とする評価の観点(8/10)	縮図を利用して、実際には測定しにくい長さの求め方を考えている。
<p>【子供の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 縮図の長さの10000分の1が3cmだから、実際の長さは、何mになるだろう。</li> <li>○ <math>3\text{cm} \times 10000 = 30000\text{cm}</math>だから、これをmになおすと、<math>30000\text{cm} = 300\text{m}</math>だな。</li> </ul>	<p>【指導の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実際には測定しにくい部分の長さを測らずに求めることができないかを考えさせるために、実際の長さの何分の1の縮図なのかに着目させる。</li> <li>○ 実際の長さに換算するときには、単位をそろえて計算することに気付かせる。</li> </ul>
反省	

